

丸山忠男議員



- 勝山市における移住・定住促進対策の現況について
- 福井国体に向けての視覚障害者卓球選手への支援について
- 古い左義長櫓の再利用について

そのほかの質問
 ・インバウンド政策について
 ・コミュニティバス「ぐるりん」の運行について

一般質問

問 市長は、「人口減少対策は市の存亡をかけたチームであり、市役所が一丸となる体制を作りたい」として今年度から、ふるさと創生・移住課を創設した。足で稼ぐ地道な行動のコンシエルジュも評判は上々とお聞きしている。現在の進捗状況や今後の方針等について見解を伺う。

答 現在、移住コンシエルジュは市内企業や金融機関等を訪問し、情報の提供と収集を重ねている。その過程で支援を必要としている移住者を紹介されることもある。移住に係る支援制度を示したパンフレットを配布したところ、問い合わせや相談も増加している。今後ふるさと創生・移住課が中心となつて、オール市役所体制で知恵を絞り、取り組んでいく。

問 障害のある人がスポーツにチャレンジする姿には心を打たれる。視覚障害者卓球選手として来年開催の福井国体に出場が可能な選手が勝山市におられる。現在懸命に頑張つておられるが卓球台が約40年前の古い物で、競技の上でハンディになつて

答 国体が開催される機会に是非とも新しい台の購入を検討して頂きたいとされているが、担当課の見解を伺う。

問 勝山城博物館は、平泉寺収蔵庫に眠っている古い左義長櫓に保存処置を講じた後、館内に再現して常時展示することにより勝山市の観光に活用したいとしている。教育委員会の見解を伺う。

答 勝山城博物館の2階には左義長コーナーがあり、1年を通してご覧頂くことができ、勝山を訪れる方に勝山左義長を知っていただく良い場所と考

問 今年度、移設する方向で調整するとともに、移設に際して、組み立て手順や方法も記録にとる必要があると考えるので、組み立て経験者のご協力も頂きながら、作業を進めていきたい。

田中三津彦議員



- 道の駅整備時期の県との不具合について
- 総合防災訓練の実施要領について

そのほかの質問
 ・観光の産業化推進のための具体策について
 ・県との意思疎通の在り方について

一般質問

問 当市の道の駅は31年度中に完成させ、32年度早期にオープンする構想で、基本計画にも明記されている。県も昨年策定した福井県高速交通開通アクシヨンプログラムでは、同じスケジュールを示していた。ところが、改訂版では32年度中の整備へと1年先送りされている。この変更は事実か。事実だとすれば、なぜ議会や市民の皆様は何の報告もないのか。また、あくまで31年度中の整備を目指すべきと考えるが、如何か。

答 勝山市道の駅「恐竜渓谷ジオパーク（仮称）」については、基本計画で、平成31年度完成、平成32年度オープン予定としている。事業スケジュールは、平成29年度に、設計、用地買収、平成30年度に敷地造成、平成31年度から建物建築、外構工事を行いたい。

問 今年度の総合防災訓練は、電源喪失下での災害対策本部の設置・運営、福祉避難所と支援物資の集配拠点となるジオアリーナでの各種訓練など、私が指摘してきた内容が盛り込まれ、より実践的なものになった。しかし、全職員を対象としたブラインド方式のシナリオでの訓練、個人から組織全体へと段階的に成果を積み上げる訓練方式の採用等、改善の余地もある。市の考えを伺う。

答 災害対策本部員の参集を本年度もブラインドで行う。ただし、参集後の訓練については、シナリオに沿ったもので行う。個人から組織全体へと段階的に成果を積み上げる訓練方式について、担当職員による事前訓練を行った上で、本訓練に臨む予定。総合防災訓練終了後、速やかに課題を検証し、解決に向けた個別訓練を本年度中に行い、次回の総合防災訓練に繋げたい。そして3年度後を目的に、全ての訓練を段階的に実施することを目指す。

問 福井県高速交通開通アクシヨンプログラムの改訂において、勝山市はスケジュールに変更はない旨を伝えたが、福井県は、供用開始年度にあわせて平成32年度までのスケジュールにしたと聞いている。